

2020 年度事業報告

【当会概要】

当会は、1987年、公的バンク設立を求めて京都府福知山市で発足した設立運動に端を発する。

1988年12月、関西各地で患者支援活動が動き出し、1989年10月に東海骨髓バンクが設立した。

1991年12月、骨髓移植推進財団（現 公益財団法人日本骨髓バンク）設立を経て、1992年10月、近畿各地域で活動するボランティア団体のネットワーク化を目指し、前身である「関西骨髓バンク推進協会」を設立。以来28年にわたり活動を続けている。

設立当初は近畿各府県のボランティア団体が加盟し、連携しながら会報発行など活動を共にした。血液センターや行政との意見交換会や、シンポジウム・フォーラムなどを開催し、普及啓発と登録者数を増やすための努力を続けた。

2003年9月に法人格を取得。

活動を続ける中で、各地のボランティア団体がそれぞれの地域での活動に特化し、脱会。現在は京都府福知山市に事務局を置く「NPO法人 献血と骨髓バンクの和を広げる会」のみが加盟し、大阪とともに京都北部、兵庫北中部で活動している。同NPOとは会報を共同発行とし、本事業報告にも同NPOの活動についての報告を含める。

行政・日赤・献血に関わる奉仕団体・元患者や家族・医師など、多くの協力と支えを得ながら、ともに事業をすすめて今に至る。

1. 事業実績

①ドナー募集支援事業

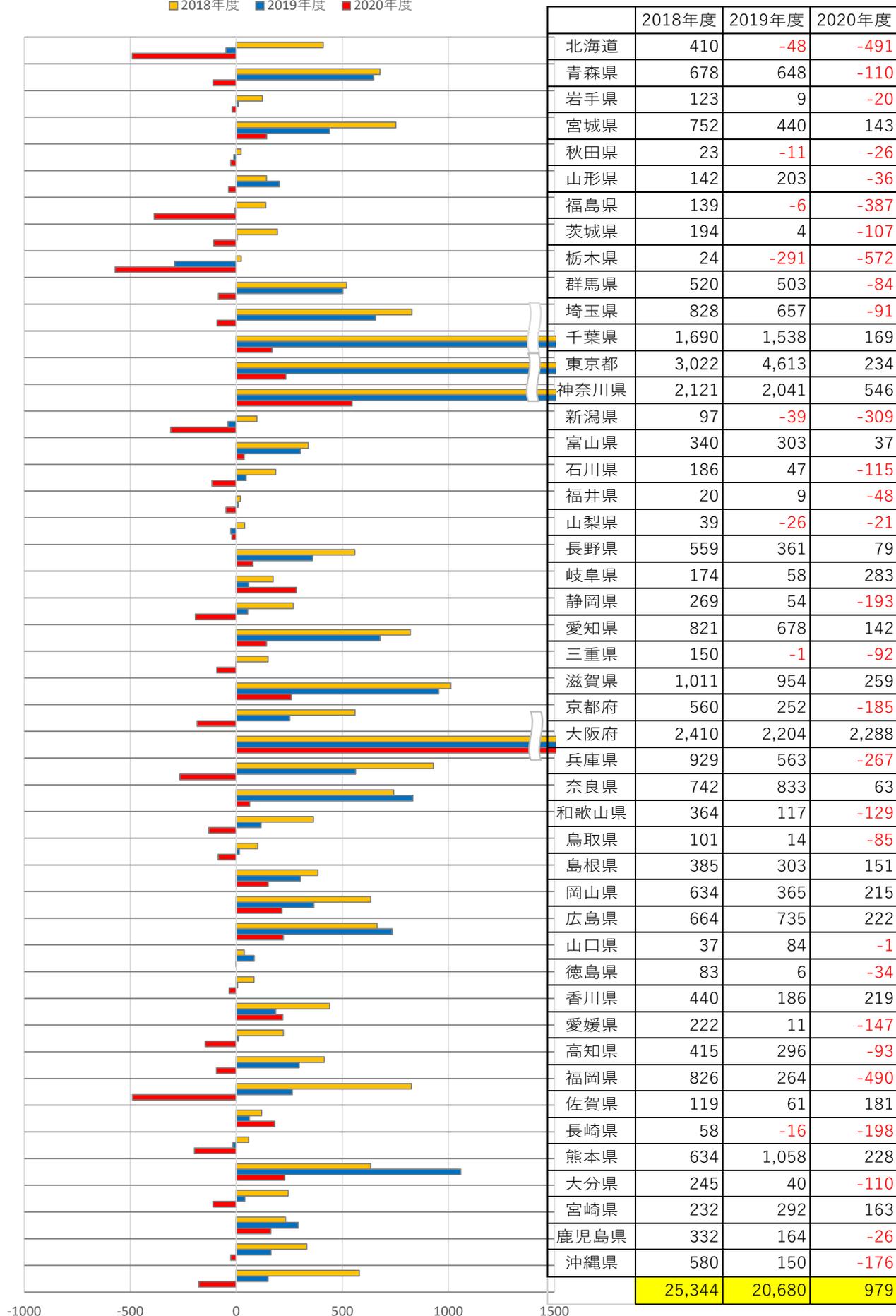
2020年初めに新型コロナウイルス感染症拡大が報じられ、今年度当初は、緊急事態宣言の発令にともない、(公財)日本骨髓バンクから活動を休止するよう通達があった。大阪・京都では5月末まで、兵庫は6月末までの期間は活動ができない状況となった。

宣言解除後、感染対策に十分配慮した上での活動が認められ、徐々に活動を再開した。大学がリモート授業となり、献血バスの配車がなくなったこと、企業献血やイベントが中止になったことなどから登録会を計画する環境は前年度とは著しく変化した期間が続いた。

全国的にも登録会の開催が厳しい状況は同様で、2020年度の年間登録者数は2019年度より約2万人減の27218人。新規登録者数から登録抹消者数を引いた「純増」のドナー登録者数については、28道府県もがマイナスとなっている。

都道府県別純増数（2018～2020年度）

■ 2018年度 ■ 2019年度 ■ 2020年度



【大 阪】

血液センター担当者より、バスでの配車が減った分、ルームでの活動を増やすご提案をいただいた。ライオンズクラブのご協力で、新たに若年層の多いあべの献血ルームでの活動が加わった。堺市域ではドナー助成金制度が施行され、堺担当血液センター担当者と共に三者で連携し、ライオンなどの商業施設での活動強化を図った。

また、池田市内での登録会の開催に尽力した会員、および青年会議所やライオンズクラブ、その他多くのご協力を得て、北摂地域の併行型登録会の開催回数と登録者数が飛躍的に増えた。

ほぼ2か月の活動休止期間があったにもかかわらず、開催会場数は前年より38増、登録者数は343増。

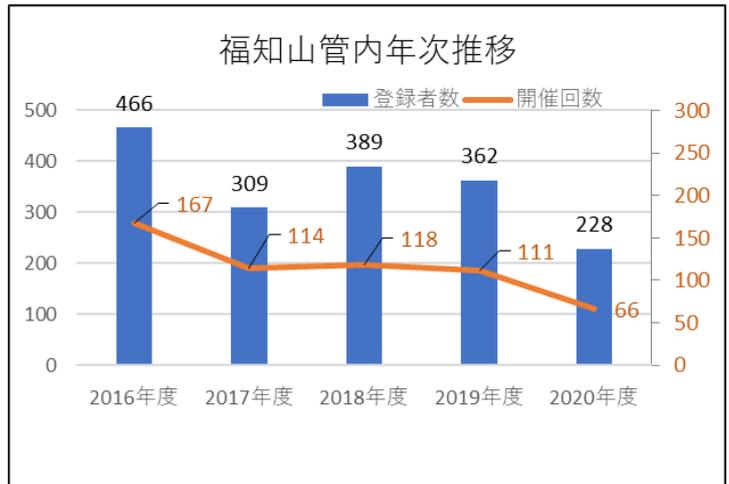
移動バスおよび献血ルームでの併行型登録会の開催実績総数は328会場3004名。過去5年間増加を継続できている。



【京都府 北中部】

福知山出張所管内(亀岡を含み舞鶴を除く)での献血併行型登録会は、66会場で開催し、228名の登録者数を得た。ともに前年度より40%減。

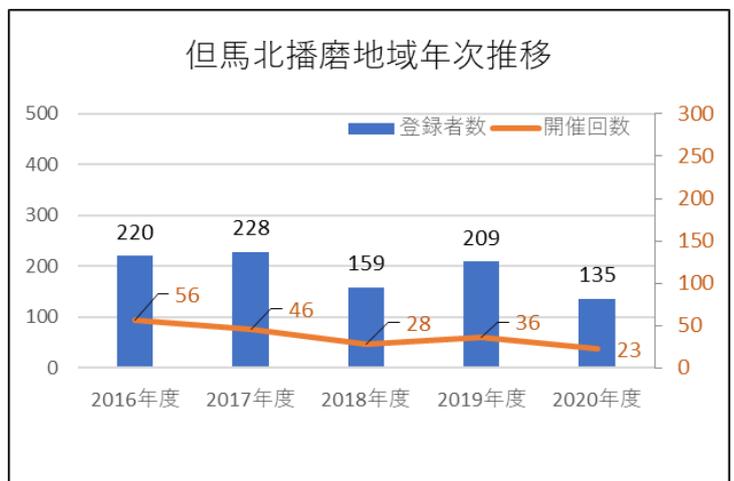
活動できる説明員の数が増え、個人への負担が多くなるため調整が難しくなっている。献血ボランティアとして受付や接遇などの活動を期待されているため、新規の説明員を増やすことが課題。



【兵庫県北中部】

但馬・北播磨地域では23会場、135名の登録者数で前年度より13会場74名の実績減となった。4月から6月および1月2月の開催がなかったことが大きく影響した。新規に豊岡市の消防団が多数来場する献血会場での併行型を実施でき、31名の登録を得た。

北播磨地域での開催回数を増やすため、血液センター担当者やLCなどと連携を図りた



②講師派遣事業

新型コロナウイルス感染の拡大の影響で大学の勉強会やライオンズクラブの例会などほとんどの講演事業は開催できなくなった。しかしその中で例年依頼を受けている大学での講義では、患者家族体験や骨髄バンク活動について学生に伝えることができた。

- *「献血と骨髄バンクのための市民大会」9/13（日）【和を広げる会】
- *ゆめの木 骨髄バンク勉強会 11/9（月）
- *羽衣国際大学 講義 11/23（月・祝）
- *都島ライオンズクラブ 骨髄バンク勉強例会 12/11（金）
- *六人部中学校つなごロックボランティア講演会 12/16（水）
- *羽衣学園高校 交流会講演 1/28（木）



③④チャリティー事業 血液難病等患者支援事業

例年支援をいただくプロレス大会や新極真会大会、ゴルフ大会などイベントのほとんどが中止となり、寄付収入が大幅に減少した。

- *スミセイヒューマニー活動
- *愛のかけはし 骨髄バンク支援コンサート（1回）
- *フィレールの会 骨髄バンク支援コンサート（4回）
- *サンジャン 骨髄バンク支援コンサート（1回）
- *手作り巾着袋を献血ドナー・骨髄ドナーにプレゼント
- *自衛隊福知山駐屯地でのぜんざい振舞い 【和を広げる会】



⑤説明員研修事業

大阪府受託事業で堺市との協働事業でもある新規説明員研修（3月）は、今年度も開催できなかったが、当事務局での研修は回数を年3回に減らして実施した。

- *新規説明員研修（7，11，3月実施） 参加者 計22名

⑥会報発行事業

NPO 法人献血と骨髄バンクの和を広げる会との共同発行で会報「関西骨髄バンク推進協会ニュース」を発行した。

第69号 2020年8月31日発行

第70号 2021年3月31日発行

⑦その他

*第5回近畿地区骨髄バンク事業意見交換会開催

2021年2月26日（金）日本赤十字社近畿ブロック血液センターにて
実行委員会形式にてZoom オンライン会議

参加者 16名

（日赤 1名 日本骨髄バンク 1名 行政7名 ボランティア5名）

*イオン黄色いレシートキャンペーン

ギフトカードの贈呈 マックスバリュ平野駅前店・イオンモール大日店

*啓発品の買い上げ

日本赤十字社近畿ブロック血液センター、堺市、福井県西福寺に巾着袋などの手作り品を買いあげていただいた。

手作り品の製作については、当会会員の患者家族、福知山市域の説明員やボランティアの協力を得ている。

また、製作のための布などの材料は、上記イオン黄色いレシートキャンペーンで寄付されたギフトカードで購入している。

*啓発品・活動資材の提供

各地の協力者の方からの手作り品多数

横断幕 4枚



2. 事業推進体制

①会員の現況

正会員 当法人の趣旨に賛同し、個人 5000 円/年 団体 10000 円/年を納める
総会の構成員となることができる

賛助会員 当法人の事業を賛助し、個人 3000 円/年 団体 10000 円/年を納める
総会に参加し意見を述べることもできる

2020 年度 正会員 個人 25 名 団体 4 団体
賛助会員 個人 46 名

②組織活動

理事会

第 25 回 理事会開催

開催日 2020 年 6 月 13 日 (土)
会場 大阪府赤十字血液センター 新館 6 階 事務局
出席理事 5 名
議案 「2019 年度事業報告書案・活動計算書案」
「2020 年度事業計画案・活動予算書案」

総会

第 17 回 通常総会開催

開催日 2020 年 6 月 13 日 (土)
会場 大阪府赤十字血液センター 新館 6 階 事務局
出席 24 名 (うち書面表決者 9 名 委任状提出者 9 名)
議案 「2019 年度事業報告・活動計算書」
「2020 年度事業計画・活動予算書」